婦人と新社會

山田わか主筆

九月號

消費組合と社會主義

性慾道德に關する一考察

世界の平和と人心の革命

家庭の永久性

私の立場

英國の讀者より

東京の夏

夏日

近代（承前）思想の歴史的研究

毎月一回一日發行　第三十四號　大正十二年九月一日發行

東京[illegible]婦人と新社會[illegible]發行

回婦人回問題回研究回資料回

婦人と新社會

第一卷二圓五十錢
第二卷三圓
第三卷三圓

合本

總クロース
金字入美本
送料各十五錢

回主要目次回

■社會と婦人■文化と文明■家庭婦人と政治■家庭と家屋と文明と■婦人の解放とは■婦人運動の發達と其の傾向■性的教育■男子の婦人論■結婚に對する現代人の態度■婦人の經濟的地位と實業■婦人と社會奉仕■女權と子供■女性の直覺■本能の跋扈から本能の征服へ■米國婦人の生活と婦人參政權■青年男女の交際機關■道德と藝術■新マルサス主義を否定す■男性文明の末路■産兒制限の倫理的批判■小學教員と母性■母性の革命天才、遺傳、環境に附ての考察■スペンサーの婦人觀■再婚に付いて■男女關係と母子關係■健全なる人生觀が現代政治の不安を一掃する■「男らしさ」の定義を變更すべき時■再び家庭の危機に附ひて■集合的育兒法と子供の幸福■不滿と社會主義■オリーブ・シュライネルの死■婦人の心理的創造力の解放■女子高等教育と出産率■革命と人間性■何が流行の浪を造るか■男子の不貞操に限て■新社會の教育方針■社會制裁機關としての家庭■生命の新價値■新時代の戀愛と結婚■時代精神を體得した婦人■女權主義者と産業王との對話■新時代が要求する團體生活■基督教が人心を納め得る一つの秘訣■ルソーと現代の思想家■多妻制が眞の民主々義か■科學的態度の缺乏■交換價値と使用價値■婦人問題の社會學的基礎■婦人參政權の賛否■愛の惱みを癒すエレンケイ■適者生存の人道化が我が皇室の萬世一系■人類の希望と婦人■女性の特質と女子教育■太平洋會議の側面觀■新時代の夫の資格■カールマルクスと彼の母■家族制度と個人主義■理想の夫婦■機械と人生■教育と社會良心■能率の限度■軍備縮少と母性保護■婦人から政治家への要求■家庭奴隷から家庭の女王へ■社會生活と責任■最近婦人論の傾向■新聞と責任■家庭の進化■家庭 愛國主義 世界平和■知的婦人の職業■現代不安狀態の原因に就て■人間性と社會生活■人間の生活と動物の生活■逆な不具者と其の婦正■物價調節の鍵■新時代と婦人の位置■婦人思想界の浮標■早婚の弊に關する一考察■其の他數百篇

東京市四谷區南伊賀町
婦人と新社會社
振替口座東京五三六八八

婦人と新社會

九月號

私の立場

一、個人主義は人爲的な不平等を造つた。

二、社會主義は人爲的な平等を造らうとする。

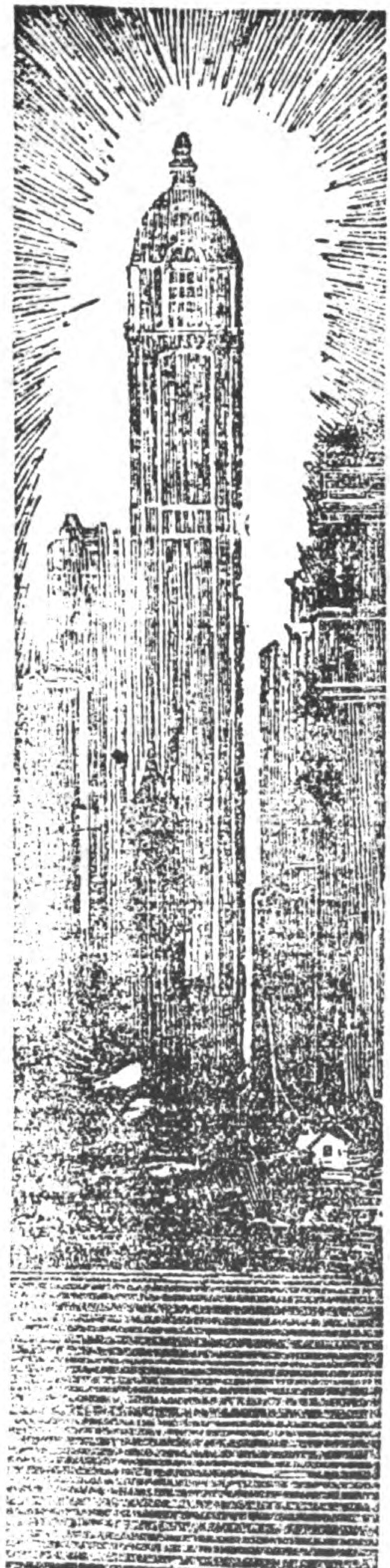
三、社會（ソシオクラシー）政治は自然の不平等を認め、人爲的の不平等を取去らうとする。

四、個人主義は優れた力と狡猾な手段と知力と或ひは位置とによつて利益を獲得する能力を持つてゐる人々のために有利である。

五、社會主義は各人に等しく同じ利益を與へようとする。そして結果の平等を確立しようとする。

六、社會政治は人の功績に嚴密に比例して利益を與へようとする。けれども功績の度を決定する唯一の手段として好機會の平等を飽く迄も主張する。

そして、此の社會政治が私の立場である。



性慾道德に關する一考察

一

個人は全部のうちの一部であり、私共の理想とする處は私共の幸福が其の全部の幸福と一致することだと云ふ立場から見る時に、有島武郎氏と波多野秋子さんの自殺にはどうも好意を持つことが出來なくなります。

武郎氏の情死事件に對しては贊否の意見がと云ひたいが、むしろ、讃美の言葉の多

生前の武郎氏を崇拜するのあまり武郎氏の最後の行爲に對する公平な批判の目がくらんでゐるのだと考へられます。

どろぼうにも三理ありとか云ひますから、どう云ふ行爲をしても、其の行爲をした人自身の立場になつて考へて見たなら、何にかしらさうしなければならない理由があつたでせう。けれども、其の行爲に對する第三者の批判は、個々の人が持つ其等の理由を超越して、其の行爲が周圍に及ぼす影響、又は、風敎上の問題をも取り入れることになります。ですから、其の行爲の當事者に特別な關係を持たない人が、其當事者を單なる社會の一員として眺めて批評する時には、其の當事者に特別關係を持ち、異常な同情をよせてゐる人からは、いつも『無理解』と云ふ怒りの言葉をあびせられますけれども、私は其の怒りの言葉をあびせる方が、異常な同情のために心が暗くなつてゐて社會上の問題に對して却つて『無理解』になつてゐるのだと考へます。

二

人生に於ける戀愛の位置を、大部分の人は今迄正當に見てゐませんでした。愛慾なるものが中心となつて、他の事柄の一切は單に其の愛慾なるものゝ周圍をぐる〳〵廻つてゐるのであるにも拘らず、其の愛慾が釀もす出來事を人生の單なる一挿話として見ようとしたりしてゐました。

强烈な其の愛慾のために心身を沸騰させて第三者を驚愕させるような行動が突發しても、人は、それを、唯、一種の不可思議な力、乃至は、魔の力として見過して來ました。

けれども、私共は、今、そんな曖昧な態度では居られない時に到着しました。そして一體、戀愛とは何であるかと云ふことを嚴肅に考へて見る時に到着してゐます。けれども、戀愛の本質は何であるかは今の處では分つて居ません。分つて居ないとしても、とにかく、戀愛の極致は死であるなど云ふ說が誤まりであることは明らかです。

そしてそれは丁度人生の終極はアヘンを呑んでいゝ氣持ちになつて無我夢中のうちに

死ぬことだと云ふのと同じではないだろうかと私は考へてゐます。

宗教は、それが生命を育み、全體としての人類の生活を豊かに樂しくするものであつてこそ、意義がありますが、もし、人命を絶つたり、人類の生活を萎縮するようなものであつたならば其れは邪教であると同じように、戀愛も、其の當事者達の生活を豊富にし、生命を延長し、其の幸福が周圍に迄も及ぼすと云ふのでなければ本物でない。周圍のものを苦しめたり、生命を絶つたりするようになつたのでは本當の意味の戀愛ではない。それは愚男愚女か、乃至は誤まつた人生觀を持つた人の取る道であると考へられます。

戀愛を成立させてゐる感情の一つ〳〵がいろ〳〵の複雑な意識から、成り立つてゐる。つまり、戀愛と云ふ一つの恐しい力のかたまりの中には、人間が持つてゐるあらゆる刺戟劑があつめられてゐるので、本もとの愛と云ふ流れが益々大きくなるので、其の愛の力の結果には何ものも抵抗出來ないようになるのです。

此の强烈な力が消極的の方面に働くならば、進み行く先きは暗やみと死滅です。本人達にはそれ相當の理窟はあつても公平な立場から見て其れは斷じて肯定出來るものではありません。

非常に强烈な其の力を正當に賢明に働かせるならば、それは太陽の光りと同じように此の地上の一切のものを温め、輝すのに反して、一歩それが間違ふならば、今も云ふ通り進み行く先きにはくらやみと死滅があるばかりです。

で、要するに、それ程、力强い戀愛に對しては、その愛の力を適當に整理して行く理性の力が必要です。そして、此の理性の力は獲得しなければならないものであるに反して、愛の力は自然に發生するものであることを思ふ時に、此處に私共の深く考へなければならない重大なことが潜んでゐます。

今、此處で、委しく書いてゐる暇を持たないことが遺憾ですが、とにかく、性的關係に對する今迄の遊戯的な浮薄な態度を變へねばならぬと云ふことは明らかです。

三

戀愛は情緒です。ですから、凡ての場合たとへば盲目的な本能的な戀愛から初めて最も精選された知力化した形式の戀愛に至る迄、其の生理的及び心理的の本質は何であるかを決定することは不可能です。併し、其處にはいろ〳〵の或る特長があります先づ、第一に異性の美に人は引きつけられます。そして、其の美のめぐりにいろ〳〵な愉快な考へがあつまつて來ます。異性としての愛、則ち、戀愛に加ふるに、愛情が伴ひ、思慕の念や、尊敬心が起ります。そして、本もとの戀愛と云ふ感情の流れを益々大きくして、そして、其の戀愛を肯定するようになります。

同時に、相手方を自分の者にしようとする感情が這入つて來ます。自分の者とした時には、又、相手が自分の者となつたと云ふ喜びの感情が生れて來ます。そして、兩性の行爲が打ち解けて來る。そして、自己の喜びに相手の喜びが加はつて其の喜びは一層大きくなり相愛する者の間には一歩も他人が入ることが出來ない、つまり、一寸

の隙間もない關係が成立して、歡喜の絕頂に達します。
双方が歡喜の絕頂に達し、双互の感情が反響し合つて一種の心理狀態が出來上る。此の狀態が戀愛です。そして、人は其の心理狀態を今迄のように遊戲的な浮薄な態度で見てはならないと同時に何處迄も其れを生かして働かせるべきであると私は信じてゐます。

四

同じ自殺でも全然否定出來ない場合もあります。
なぜかと言ふと、どの點から見ても何等の不都合のない、むしろ、崇高な氣持ちがする自殺も中にはあります。其の一つは今年の五月上旬英國に於けるローザラインドハインドマン夫人の死で、もう一つは今から十二三年前のことではあるが墺地利の社會學者グンプロウイッツ夫婦の自殺です。今、差し當り私の頭に浮んで來た此の二つの死に付ては誰でも何とも云ふべきことはないだろうと思ひます。グンプロウイッツは

哲學者で現代の社會學說のうち『人種爭鬪說』を立て、其れが社會學上優秀な位置を占めてゐること、及び、ウォードの社會學を獨逸語に譯させたのも彼であることは誰でも知つてゐることですが、彼はフランシスカ夫人と共に毒藥自殺をしてしまつたのです。氏の自殺の報を得た時に私も驚愕した一人でありましたが、併し、其の自殺の理由を聞いて見ると、あながち、『なぜ死んだ！』と云ふ詰問らしい言葉が發せられなくなるのです。

なぜなら、氏夫妻の間には一人の子息がありましたが、其の子息は老兩親を置いて早死してしまいました。そして、フランシスカ夫人は長い間病床に親しんでゐて、其の病夫人の介抱はグンプロウイッツ自身の手によつてゐたものです。そのグンプロウイッツの舌の先きに腫物が出來て、其れが癌であると診斷されました。彼は考へなければなりませんでした。彼は懊惱しました。自分の病氣が重くなつて行くに從つて、必ず來る苦痛を病妻に見せるのは忍びないと思ひました。且つ又、自分の死後、一人取

り殘された病妻の生活はどうなるかと云ふことも考へなければならなかつた。彼は、自分の死期が定まつた以上は、殊に、七十二才の老齢で學者としての彼の仕事は終つて居たし、非常な苦痛を自分も味つたり、妻にも味はせたりする先きに、二人一緒に死ぬことが凡ての點から最も利益であると考へたのです。

ハインドマン夫人も矢張り毒藥自殺であつたのですが、夫人が床の中で昏睡狀態に陷つてゐた時に、醫者が其れを發見したのです。そして、自殺の理由は友人に宛てた書置きによつて明らかです。「私の夫が他界してからもう一年半になります。私は夫が死んだ時直ぐに後を追はうと思ひましたが、併し、夫は私に特に一つの仕事を托して逝きました。で、其の仕事が完成する迄と思つて私は今迄延期して置いたのです。けれども、其の仕事はもう終りました。私共夫婦の力で出來る殆んど凡ての仕事は、う、してしまつたし、又してしまはないものも、其の準備だけはとゝのつたと思ひす。此の世に於ける私の仕事は終りました。もし、人が死んだ後に、たましひがある

ならば私の夫のたましひは私を待つて居るに相違ありません」ですから、私は行つて見ます。』

夫人の死が傳へられた時に、「夫人は生活に窮したのではないか」と云ふようなことを云つた人もあつたそうですが、併し、銀行には一萬五千九十圓あつたし、其の外にも何にかと財産があつて　其の處分付ても、並びに、石碑に關することまで、細々と書き殘してあつた處を見ると、夫人は生活に窮したのでも、又、氣が狂つたのでもなく、するだけの仕事を仕終せた後に、一途に、夫の後を追ふたのであることが分ります。

五

で、私は、夫の死後迄も夫に對する純一な心で殘る仕事を完成し、そして、夫の後を追ふたハインドマン夫人を、婦人のうちの最も幸福な者の一人として考へてゐます。

ハインドマン夫人の場合と云ひ、又、グンプロウイッツ夫婦の場合と云ひ、夫婦の

愛を完ふして當人達も滿足である上に、何處へも何等の迷惑もかゝつてゐません。死ぬことが、自分のため又他人のために最上な策でありました。けれども、武郎氏の場合は其れとは雲泥の差があります。私は其れが遺憾でなりません。

氏自身も折りに觸れ、時に觸れて云つて居られたように氏は矢張り弱い人でありました。そして、物質にことを缺かない氏の生活が其の弱點を一層弱くしました。

武郎氏の書き置きのうちに『歡喜のうちに』と云ふ言葉がありましたが、それはさうであつたかも知れません。つまり、戀の痲醉劑に醉ふことが出來る餘裕が氏にはあつたのです。もし、自分の身に變事があつたら幼い子供達の生活は！　老いたる親の生活は！　と云ふ切迫つまつた狀態にあつたならば、戀の痲醉劑に醉ふ餘裕はない筈ですから、殊に、分別盛りのあの年輩ですから。

實を云ふと、私は氏の上品な人柄を常に尊敬して居ながら、氏の主張には（と云つて、氏のものを多く讀んでゐるわけではないが）或るもの足りなさを常に感じてゐま

した。處で、昨年の九月、仙臺市に講演會があつて有島氏と私が行つたのでした。其の時、私は氏の意見を親しく聞いて、氏が人間の本能に最上の權威を持たせて居られることを知つて、私が平生氏をもの足りなく思つてゐたのは此處だなと思ひました。氏は云ひました。「我々人間の心の奥底から湧いて來る氣持ち、其れは理知、感情、德義心と云ふものよりも、もつと深い處に根ざしてゐる、其の氣持ち程、我々人間に取つて貴いものはない。であるから、我々の日常の行動が其の氣持ちの支配を受けてゐることによつて我々の行動は正しいのだ。その氣持ちは本能とは違ふようにも思はれるが、併し、外に言葉がないから矢張り本能と云つて置くが」と。併し有島氏の云はれる其の氣持ちと云ふのはどう考へて見ても本能と云ふより外に言葉はないと私は思ひ、同時に、氏自身のために並びに氏を崇拜してゐる無數の青年男女のためにそれは非常に危險だと思ひました。

私は、今より三年前に、本誌に於て、「新社會設定の要求の裏面には、「人間の本能の

要求を滿し得る社會の實現」が含まれてゐる。今日迄人間が持つてゐた人間の本質、則ち、本能を其のまゝにして置いて、そして、其の本能を滿足させ得るような社會を設定することが、今日の所謂新人の目的であり、彼等の要求して止まない新しい社會組織である。そして、これは非常に危險である。」と云つて置きましたが、武郎氏も矢張り其の本能崇拜者の一人であることを知り、私は非常に失望したのでした。

そして、私が失望し、恐れて居た通り其の本能崇拜の結果が今度の情死沙汰になつたのです。武郎氏が世間普通に有りふれた全くの淫蕩的文士であつたならば何にも云ふことはないですが、氏が世間から人道主義者又は聖者として囑望されてゐたゞけ、それだけ、氏には聖い、美しい方面であつたので、私は實に遺憾だつたのです。

『死なゝくても何とか方法が？』と云ふ言葉は氏の死を惜しむ人の誰でもがツイ口にする言葉ですが、聖い美しい方面を持つてゐる武郎氏であるからして死なゝければならなかつたのです。『他から何等の壓迫があるのではない』ように氏の書き置きにはあ

りましたけれども、他の壓迫、つまり、氏の戀愛の邪魔になるものが存在してゐなかつたならば、氏に死を選ませる理由はない。つまり、相手が有夫の婦人であつたと云ふことが氏に死を選ませたのであるから、矢張り、氏は他の壓迫によつて自殺しなければならなかつたのです。恥を知らない鐵面皮な男ならば、有夫の婦人と關係してスツタモンダともんちやくを起しながら平氣な顏して生きて居たかも知れません。けれども、武郎氏はさう云ふ態度で生きて居ることは出來ない程正直な人だつたのです。

一言で云ふならば、武郎氏は愛慾の本能に從つて有夫の秋子氏と關係した。けれども、氏の理知は其の關係を平和な心で續けることが出來なかつた。つまり、本能で出立して、理知で其の仕末を付けたのです。

どうせ本能のまゝに終始することは出來ないのですから、もう少し早く、つまり、秋子氏と關係する前に其の理知を働かせて貰ひたかつたとかへらぬことを云ふのは恐らく私ばかりではないでせう。

とは云へ、其れが所謂氏の弱い處であり、有産者の氣らくな點であつたかも知れません。

武郎氏はお子達に對しては珍らしい慈父として評判でありました。けれども、お子達に對する愛の力よりも戀愛の力の方が强かつたことを見て、矢張り、父の愛だと云ふ感を深くしました。武郎氏だけの敎養ある母であつたならば、子供に對する母性愛が必ず戀愛を退け得るであろうと云ふように考へられます。

六

秋子さんも矢張り、現代の惡く解放された婦人の一人でありました。女性として貴い處は同情心に富むことです。もし秋子さんが本當に目ざめてゐて、戀愛の意義を自覺してゐて、本當に武郎氏を愛してゐるのであつたならば、武郎氏一人を親としてゐるいたいけなお子達や老母堂に對する同情心があつて、武郎氏と戀愛關係を結ぶ前に波多野氏と離婚して自由な體になつてから武郎氏に接近して行く筈であつたのです。

もし、又、氣骨のある婦人であつたならば、そして、自由な體になることが出來なかつたならば武郎氏の身をはろぼし、其の上に武郎氏の一家を悲しみのどん底へつき落す前に一人でコッソリ死ぬ筈でした。けれども、單に自己に目ざめた、つまり自己本位の享樂主義の秋子さんは、あれだけの大きな犧牲を享樂して滿足して死んで行きました。

波多野秋子さんの行爲を、唯、有島氏に接近して行つた態度だけを見たならば大變不都合です。さんざん有島氏を誘惑して、ツイに有島氏の心を摑へ、いよいよ情死と云ふ最後の場面に到着してから、一人殘された夫に對して『可愛相』だとか『氣の毒だ』とか云ふ書き置きを殘したのですが、そして、私共は、どうも、それが變だと思つたのですが、後になつて、波多野と云ふ男の非常な卑劣な性格を知つて、秋子さんの心が波多野氏から離れるのも無理はないと思ひ、同時に、秋子さんは死ぬ最後の瞬間まで見へを張つてゐたと云ふ感を深くしました。

なぜなら、一方には萬人の崇拜の的となつてゐる武郎氏を自分の者とし、しかも、他の一方には依然と夫の全心の愛を一身にあつめてゐるかのように裝ふてゐました。それに付て、滑稽なのは石本靜枝夫人の言葉でした。靜枝夫人は秋子さんの遺書を新聞記者に發表するに際して、『波多野氏と秋子さんとの間に愛情が失くなつてゐたかの如く世間に傳へられるのは遺憾だ』と云つて、辯解して居られたことです。夫にも愛が殘つてゐる。併し、新しい愛人とも離れられないと云ふのは、愛を二つにすることであつて、それは長い間の男子の惡いくせであつて、婦人としては最も卑しむべきことでありますから。

もう一つ滑稽なのは婦人公論八月號所載の鶴見祐輔氏の言葉です。鶴見氏は『珍しい日本婦人の典型としての波多野さん……』と云つてゐます。其の理由は『女らしさと天才とが巧みに織り合はされたやうな感じのする女性』としてだそうです。原稿のことで折り〳〵逢ふ機會のあつた私は秋子さんが事務的なハキ〳〵した婦人だと云ふこ

とは知つてゐても、不幸にして彼女の天才をまだ見出して居なかつたのですが、彼女の『女らしい』と云ふのはどの點を差して云ふのか私は判斷に苦しんでゐます。彼女にもし、少しでも女らしい點があつたならば、陰險な悪辣な彼女の夫に對しては、とにかく、少なくとも三人の孤兒を造り出し、老い先き短い老婦人に苦熱の涙を呑ませるような行動には出ない筈でした。老母や幼兒達を悲歎のどん底に陷れても、自己の愛慾を全ふし、戀の酒に醉ふて死んで行つた彼女は、最も『女らしからぬ』利己主義者のかたまりです。

婦人の知能が發達し婦人の性質に變化があつて、婦人の生活と云ふものがどんなかたちのものとなろうとも、『女らしさ』の標準は何處迄も他を思ひやる健全な同情の念に厚いことでなければなりません。太陽の熱が永遠に此の地上を温めると同じように女性の聰明な豊かな同情が此の世界を温め育むものであると云ふことは、詩的又は直覺的に承諾出來るのみならず、哲學的にも科學的にも立證出來る眞理です。要するに

愛するとは此の眞理の實現です。此の同情の念を缺いてゐた秋子さんは最も『女らしからぬ』婦人でありました。

七

要するに、秋子さんも、此の過度期が生んだ犧牲の一人、つまり、前にも申ましたが、悉く解放された女性の一人でした。そして、其の責任は、勿論、本人にもありますが、今日の社會、並びに、男子側にも、全然責任がないとは云へません。相互ぃ愛情の上に立つてゐる筈の夫婦生活であるにも拘らず、夫の方は妻の愛情をさん〴〵に踏みにじつて、不品行のありたけを盡すのですから、昔の女のように全然盲從してゐることの出來ない此の頃の婦人は其れを耐へ忍ぶことは却つて屈辱であるかのように感じて來たのです。此の傾向は恐るべき、そして、戒しめなければならないものであるに相違ありません。けれども、婦人が男子よりも、遙かに、賢明で、聖人でない限り、其の責任を婦人にばかり負はせるわけには行きませせん。男子の方でも、成程・自

分がこんな勝手なまねをしてゐたのでは妻も自暴自棄に陷るであろうと云ふ處に氣附かないならば、世の中の夫婦關係は日に月に亂れて行くものと思はなければなりません。

此の頃、夫のある婦人の家出事件、殊に情死事件が頻々として續きましたが、其の婦人の心持ちを考へて見るならば『夫がさう云ふことをするならば、私もこうする。けれども、それがグヅ〳〵云ふならば、エー、めんどうな死んでやる!』と云ふ處に要するに歸着するように考へられます。

愛人を造つて死ぬ婦人、並びに、妻に捨てられた男は自業自得であるとしても、それによつて蒙る周圍の打擊は、殊に、もし、子供でもある場合には恐しいことです。

物質慾に對しては可なり嚴重な整理がしてあつて、米一俵、着物一枚に對しても、それが屬する處を明らかにしてあります。けれども、愛慾に對しては、婦人の意志を束縛することの外には全く無政府の狀態にありました。

今迄は、婦人が全く盲從の狀態に甘んじて居ましたから、比較的悲劇は少なかつたのですが、いつ迄も〳〵婦人は其の狀態に甘んじては居ないようになりました。其處で婦人が、單に目を開いたばかりでなく、聰明になり、同時に、男子達も婦人に對して、今迄とはまるで異つた謙讓な態度にならないならば、性的關係の悲劇は日に月に殖へるばかりでありませう。

つまり、前にも申ましたように一步間違へば、人をも自身の身をも燒き盡くし、それを正當に働かせれば此の地上を美しくし一切の生命を温め育くむ程、愛慾は力强いのでありますから、此の戀愛に對してはそれ相當の深い知識と、深重な用意が必要であると云ふことを私は深く考へます。

八

人間種族を經續する或る他の方法が發見される迄は、性の關係が生命の始まりであると云ふことは拒むことの出來ない事實です。して見たならば性的關係の進步が生命

の進歩の始まりであると見なければなりません。つまり、性的道德の概念と、生命の進歩の要求とが調和しなければならないのです。そして、性の全部を神聖視しなければならないのです。

そして、又、性の關係を尊敬しなければなりませんが、併し、此の性的關係は新しい生命を創造する、つまり、人種を繼續すると云ふだけのものではありません。單に人間の數を殖すと云ふばかりでなく、人類が相互にます／＼親密になり、貴くなると云ふ衝動も此の性的關係のうちには含んでゐます。

完全な夫婦關係を結んでゐる男女の間に生れる子供は兩親から偉大な愛の力を受けついで貴い人間となるばかりでなく、異性に對する愛は、藝術、文學、法律、勞働及び、宗敎等にも密着な關係を持つてゐるのです。ですから、戀愛は非常に精選された理知の指導を受けなければならず、且つ、又其の大きな力が周圍に及ぼす影響は甚大でありますから、社會の干渉も受けなければならないものだと私は信じます。



世界の平和と人心の革命

私共人間の知識では計り知ることの出來ない一種の力が　秒時間の休みもなく思ひ煩ふ私共の心持ちには無頓着に、何事かを計畫し、實行して、さま〴〵な現象を私共人間の上に投げつけます。ですから、私共は自分達の家族を始め、自分達を、並びに同胞を、否、全人類を病氣又は天災地變から逃れさせ、此の地上に不幸の量よりも幸福の量を多くするために、一家族、否、一國、否々、全人類が共力する筈だ、個人間に、又は、國際間に氣を立てたり爭つたりしてゐる暇はない筈だと考へます。

處が實際には、個人間に國際間に競爭又は、爭闘が絶へません。そして、先人達が人類の幸福を思つて苦心の結果殘して行つた知力並びに財力を、幸福の増進に使用すると云ふよりは、殺戮と破壞の用具に用ひてゐると云ふ有樣です。

平和、平和と人がよつてたかつては大

呼してゐるにも拘らず、あの世界大戰爭の本もとは云ふに及ばず世界至る處まだまだ戰爭氣分が漲つて居ることは周知の事實であります。

と云ふのは、私共人間がまだ本當の平和的人間になつてゐない。理屈では、つまり口先きでは平和を希望し、平和を稱へて居ながら、事實に於ては戰爭を惹起するやうな態度でゐるからです。

國內の出來事に徵して見ても、每日々々新聞紙上を賑してゐるものは、理論の相違であるから、單に論爭であるべき筈の主義者と主義者の間の流血、殺人、凌辱事件、神聖であるべき筈の學園が血で汚されたり、而も生徒が敎師をなぐると云ふような最も厭ふべき險惡な恐しい出來事です。

其處で、人間と云ふものは人間の名にふさはしい平和狀態に於て生活することは出來ないものであらうかと云ふ疑問を私共は起します。

とにかく、人の行爲は人の考への結果であると云ふことつまり、思想と行爲は同じものだと云ふことは誰でも承知してゐる事實ですが、其の考へと云ふものは天から降つて來るものではなく、人の心のうちに存在してゐるものです。そして人の行爲と云ふものは、一ツの行爲をするには、どうしても、それを爲さなければならないような事情になつた、つまりさうさせる前條件が必ずあつたのです。で、個人の場合ならば、或る一ツの行爲

をするようになつた迄の心の過程を解剖して見るために催眠術をかけて、一切をしやべらせて見ることが出來ます。けれども其の行爲が大勢の人の行爲である場合、つまり群集の場合では催眠術をかけると云ふようなことは不可能です。其處で、今日の學問は心理解剖と云ふ名で、群集の行爲を解剖しようとする處迄進んで來てゐます。

　此の心理解剖を深く應用して見なくとも少なくとも此方面に心の目を一寸向けて見るならば、唯、單に、平和を大呼しただけでは、又、どんなに平和運動を盛んにした處が、今日の人間の心の態度のまゝでは到底此の地上に平和が實現されないと云ふことは明白です。で、此の問題に付て、一代の先覺者エレンケイが適確な意見を發表して居ますから、左に、御紹介して見ます。

　女史は一千九百十四年の八月、即ち歐洲戰爭が始まつて三週間後次の質問を受けました。

『人類は如何にせば戰爭を防止し得るか？女史の意見は其れが可能であるか？もし、可能であるとすれば如何なる手段によつて？』これに對して女史は答へました。

　人類は何時かは戰爭を防止し得ると云ふ信仰は、人類はいつかは單に人間らしくなり得ると云ふ信仰と一ツものである戰爭を防止し得る第一の手段は、今日の凡ての敎育が略奪的本能を抹殺せしめな

ければならない。何となれば凡ての戰爭の根源は略奪的本能にある。今日の敎師並びに傳道師が、戰爭は造物主の計畫の一ッであるとか、基督敎は戰鬪的精神と戰鬪的行爲とをもつて行き得るなど〻敎へて居る間は到底平和を實現するための敎育、則ち戰爭防止の敎育は學校に於ても家庭に於ても與へられない。

第二の手段は、一國內に於ては個人の間の又は政黨の間の嫌憎を、國際間に於ては國民的嫌憎を傳播する機關として新聞紙を用ひさせない事である。これは言論の自由に對する最惡な罪である。又、一個人の投機の方策に利用さる〻黃色新聞主義を防遏するために、直接戰爭に使用される凡ての產業は官營とすべきである。

第三の手段は、國際間の衝突が絕頂に達した時、政府が宣戰を布告する前に政府は國際間の相互の公文書を發表するやうに輿論は要求しなければならぬ。これは今日迄は宣戰布告後に發表されるのが例になつてゐた。

今日に於て戰爭を防止する最も有効な方法は政治家が健全な國民主義を維持し得るやうに政治をとる事であると云ふ人があるかも知れない。けれども、これは同種族の人類、又は、同じ言語をふつた國民間の一致を計る事は出來ても、異種族や、異つた言語をもつた國民との間の調和を計ることは出來ない。

戰爭の場合に援助し合ふを目的とする

同盟や、戰爭の場合のために準備するに當つてお互ひに他國にまさつた武備をしやうとする國民間の競爭は未來の戰爭を醸しつゝあるのである。殊に、平和條約が國民の權利を無視した場合にその條約の結果は文明を貧弱ならしむる絕間なき戰爭準備の狀態に國家を置くことになる。

一千八百七十年以來ですら、この種類の度量なき政治が流行してゐた。則ち、武力によつて政治上及び經濟上の範圍を擴張しやうとしてゐたのである。度量ひろき政治、則ち、一大主義のもとに、如何にして國民の利益を計るべきかを了解した政治が戰爭を豫防し得る。過去五十年間西歐洲の政治の第一に保持する筈の主義は、東歐洲の腕力が權力であると云ふ學蠻主義に對抗して、其の平和と自由と敎化を防禦する目的をもつた同盟である。けれども限界狭き政治は過去四十年間、歐洲の列國を統一するかはりに分離させて置いた。そして、今や文明に反する戰鬪的準備が相對立して居る。もし、歐洲文明國が未來に於て戰爭を防止しようとするならば、各國は前述の腕力主義を捨てゝ、彼等の政治上並びに經濟上の行爲を文明國民間に實行され得べき唯一の力として、文明的に其れを認めなければならない。

この智識が、唯單に抽象的の思想として止まらずに、生きた眞理となつた時、其の時にのみ、國民的利己主義や國民間

の競爭は經濟的及び武力的に其れを云ひあらはさないやうになるであらう。しかる時に、始めて、國民の繁榮と權利と自由と平和とを保障する新しい高尙な權力を國民に與へやうとする勞働と政治の組織を人々は望む事が出來る。

併し、そう云ふ狀態が實現する前には數代が經過せねばならぬ事は明白であるが進歩はその方向に向ひつゝある。

今回の戰爭の結果が直接平和の原因になると云ふ樂天的な信仰を私はもつて居ない。婦人と勞働階級が政治上勢力を得た時には、幾分かは現代の野蠻的な國民の權力に對する名譽とか光榮とか云ふ思想は變更されるであらう。併しながら、婦人と勞働階級が政治上の勢力と責任を得た後人類の有識な努力によつて、この世界を眞面目に組織立て、そして、世界の戰爭狂に打ち勝つには矢張り數世紀を要するであらう事も又明らかである。

現代の既婚婦人は結婚前に贏ち得た彼女の發達を彼女と共に家庭内に持つてた。そして、かやうな妻、かやうな母は二重の幸福を求めて居る。則ち、家庭に於ての女性的力の發達と、社會に於ての人間としての力の發達と。今日の婦人はこの二重の幸福を自身のため並びに人種のために保持しようとして居る。既婚或ひは未婚を問はず今日の婦人の意志は其の最後の又最大の目的として人類を人間化しやうとして居る。勿論、これを意識して居る婦人は未だ少數で、大多數は無

意識に其れを實行して居るが。で、今回の戰爭は婦人のこの意志に新しき力を與へた。既婚婦人は最早男の造つた社會のために子供を生み育てる事をもつて滿足しない。則ち平和と戰爭に拘らず國家のために戰爭の用具として子供を與へる事を肯じない。瑞典の婦人解放の豫言者の一人アルムキストの豫言『人間は未だ生れて居ない。唯、胎兒の時代にある』ことを婦人は悟り始めた。

つい此の頃迄、現代に於て、かやうな言を發するのはあまり馬鹿氣た誇張だと多くの人は考へてゐた。併しながら其の所謂現代は僅かの間に全く其の表面を變へてしまつた。で、我々は文明に貢献するための我々の仕事を始める充分な理由を今は持つてゐる。そして、それはクライストが二千年以前に既に始めて居つた仕事である。則ち、クライストは人類に神を選むか、金を選むか、靈を選むか、肉體を選むかの自由を與へた。そして正しき選擇をすると云ふ事は二千年以前と同じく、今日に於ても、新しく生れるに付いての條件である。何となれば、それによつて我々の時代、猶未だ、胎兒時代が人間のかたちとなるが故である。そこで、この胎兒を人間のかたちにすると云ふ仕事の半分以上は婦人の選擇と、そして其の仕事を爲しとげるための力を得やうとする婦人の意志によるのである。婦人に其の力がない間はこの仕事は不可能に終る。

今、世界を搔き亂して居る戰爭は腕力と權力との間の戰ひのやうに見ゆる。併しながら、實際は腕力は權利なりと云ふ昔の學說と、權利は腕力とすべきであると云ふ新しい意志との間の戰ひである。

今日の所謂文明國は經濟的にそして國際的に、全く、野蠻の狀態にある。故に、母が息子に、彼の行爲は眞理と正義とによつて、導かれねばならぬと敎へても、もし、其の息子が成長した後實際政治又は愛國の名のもとに不平等な無理な商業的或ひは交戰的政策を支へねばならぬ時には母の敎へは何にもならぬ事になる。

我々が今、現に、經驗して居るこの現象は婦人の力を增加するに非常に有利であるけれども、表面的には其の反對であるやうに見ゆる。何となれば今日の婦人は、昔戰爭に破れた國の婦人が俘囚にされた時に受けた待遇と同じやうな待遇を社會から受けて居る。無數の婦人が殺されたり、犯されたり、彼等の家庭から、又、國から放逐されたり、それ以後の彼女等の生涯は病人であつたり狂人であつたりした。だが、今日の婦人の狀態はそれと大差ない。婦人の神聖、則ち、次代を生む母の神聖とか、或ひは解放された婦人とか云つても、それは、唯、一國內の婦人にのみ適用出來るので、他國の婦人に對しては、決して用をなさないのである。他國の婦人が父や夫や息子や或ひは兄弟が、戰場に於て殘殺されたり、不具にされたりするために流す淚は全く無

視されて居る。

併しながら、これ等の苦しい經驗がせん／＼と婦人達の目を開かしめた。そして、彼女等は母の神聖と云ふ事に就ひての凡ての美しい立派な文句は、唯　彼女等を瞞着するものであると云ふ事實を知るやうになつた。オーストリヤの社會學者ゴールドシヤイトは『人間經濟』――これは國民經濟である――と云ふ書を著したが、婦人はこの書にある說に從つて彼等の生活を整頓した時にのみ、母の神聖と云ふ事に付いての凡ての立派な言葉は本當になる。ゴールドシヤイトの第一の要求は、戰爭の犧牲に供するために子供を生むを婦人は拒む事、第二の要求は、婦人は生理的に精神的に人間と云ふ材料を向上させ、そして其の向上した位置を維持すべき事、そして最後に、婦人は自覺的に戰爭に反對すべきである。と云ふのである。

婦人は輿論に影響を與へる事によつて今日に於てもこれをなし得る。併しながら、婦人が市民權を得た時にのみ、前述の人間經濟の原則を婦人は人間の力が現れて居る凡ての方面に實行する事が出來る。其の時に於てのみ婦人は社會にいろ／＼のかたちをもつて現れて居る人間浪費に對し戰爭に於て男子が婦人を犯すと云ふ本能に對して充分に働く事が出來るこの二つの罪惡は人間經濟の原則にそむく最惡なものである。そして、國際間に於ては双方が國家の利益と云ふ名のもと

に其の罪惡を敢へて行つて居るのである。

或る階級の人は、所謂國民の富を造るに利用され、又、他の或る階級は　所謂國家の幸福のために犧牲に供されるけれども、そう云ふ風に富を造るために貧弱になり、そして、國のために犧牲に供せられる人間其のものが實は其の國の富であり、其の國の幸福の根原であると云ふ事實は千古不易の眞理である。人間經濟の見地が一般に承諾された時にはこの眞理が一般に明瞭になるであらう、人類の半數なる婦人は彼女等の意志でもなく彼女等の過失でもなくして世界戰爭の不幸の中に投げ入れられた。そして、彼女等は各方面の救濟事業によつてこの不幸を輕くしやうと試みた。婦人は大なる努力によつて平和のために働く事を試みた

交戰國の婦人の代表者は男子よりも遙かに優れた廣い寛大な意見を發表して居る。併し、それにも拘らず平和が締結される曉には婦人は無視されるであらう。交戰國の婦人が、今、平和運動をするために同盟をした處が社會は耳をかさないであらう。か、もし、交戰國の最も優れた婦人が人間經濟の眞理を悟り、そしてこの戰爭の繼續は人類の破滅であると宣言するならば其の婦人は犯逆者と目されるであらう。

併し、かくの如き慘憺なる狀態にも拘らず、前にも一寸云ふた通り我々に強き望みを與ふる或る底流がある、そして、

何世紀も〳〵の間に設定された組織、則ち、利己主義の組織は、其の秘密外交及び武備の競爭と共に、最早、無用なものであると云ふ事を人々は悟り始めた。他國民の利益を無視して一國民が利益を得る事及び既に分捕したものをどこ迄も防禦しやうとする事はます〳〵不可能になつて來た。何となれば世界主義がいよいよ實際となり、我々は其の中に生き、働き、そして、我々の存在を確かにして居る。

婦人が男子と、ほゞ、同じやうな仕事に從事して居る以上、其の數がます〳〵殖へて來るのは自明の理である。そして、この婦人階級、社會力の半分が政權もなく、政治上の責任もないのは不條理である、政治上の責任なき社會員の多い事は社會のために危險であると云ふ。そして彼等婦人に責任を負はせるには、彼等に政權を與へよと云ふ。

精神的に、そして、文字通りに婦人は戰爭中、男子に代つて田畑に種を蒔いて居る。けれども諸國が再び內部の發達の仕事に着手する時、戰爭以前に人類を煩はせて居た諸問題の多くは、又、この婦人の蒔いた田畑から起つて來るであらう且つ又戰爭中に婦人が手をつけた仕事は婦人自身の發達のために、要用なものではないであらう。何となれば彼等は、間違つた勢力のもとに働いて居た。

利己的國民主義の政策は國民間の生存競爭には役に立たない。この主義を保持

して居る國民は其れだけでも其の國の破壞をまねぐ。一國民よりも全人類を上に置かなければならぬと云ふ眞理は動すべからざる眞理である。そして、これが人類の進歩のために最も要用なものである。丁度、それは一地方よりも一國を先にし一家族よりも一社會を先にすると云ふ事と同じである。そして、かくの如くにして、我々は一地方の利益、一家族の利益をも無視しない事になる。無視する處ではなく、却つて、一層强き地方及び家族を造る事になる。其處に進歩がある。で私はこの理論を直ちに國際間に應用する即ち、人道を個々の國の上に位させなければならない。

個人間に法律と道律が必要である如くに、國民間にも法律と道德があらねばならぬと云ふ愛國主義を國民が信仰とするのでなければ戰爭は止まない。そして、この愛國主義を人類の信仰とするにはこの情勢を造るための敎育が必要である。

世界の平和、則ち、人類間の平和を望むものは、この愛國主義を第一敎育によつて醸造しなければならない。同時に、この愛國主義は婦人自身が國民的自己主義に參加することを禁ずる。何となれば粗惡な嫌惡が愛國主義だなどと呼ばれて居る間は、又、婦人が、他國に對して自國が暴力を行ふを名譽と考へる間は、婦人は國際的正義の觀念を次の時代に植え付ける事は出來ない。

（四六頁へつづく）

消費組合と社會主義

ジード

協同といふ言葉が一つの新しい社會秩序を説明する爲にオーエンとその弟子に依て用ゐられた時に、この言葉は社會主義、或ひは寧ろ共産主義と同意義にとられて居ました。何故なら其時代には社會主義なるものが何んであるかを知る人が少なかつたからであります。丁度佛蘭西に於けるフーリエの弟子にとつての如く英國に於けるオーエンの弟子達にとつてはこの協同といふ言葉は競爭といふ言葉の反對を意味してゐました。前世紀の終り頃迄は消費組合運動の歴史と社會主義運動の歴史との間の區別がつかつたのです。

然し乍ら現世紀に於いては、一つの分裂が起りました。マルクスの社會主義はその頃現れたものの中の最新の型であつたと云へませう。彼の主義の形式の特徴とする點は、剩餘價値の學理に基礎を置いた勞働者の自覺せる階級運動であります。その剩餘價値は勞働者に依て生まれ資本家に依て吸收されて居つたのです。

その主義の綱領とするものは階級の幸福であつて、その終極の目的は革命であります。自然、社會主義は協同主義に於ける價値を少しも見出しません。何故ならばこの二つの運動は凡ゆる點に於いて正反對であつたからであります。消費組合員達は勞働者が製産者である爲に彼等を開發させやうとしたのではなく、寧ろ彼等が消費者なるが爲に組合運動にたづさはつたのであります。彼等は階級の區別もせず、又する事もできなかつた。何故なら消費の作用は凡ゆる人間にとつて共通でありますから。

　最後に、組合は既に積み立てられた資本を沒收するのが目的でなく、漸々とそして平和な方法を用ゐて新たに資本を造らうといふのが目的であります。

　それ故に協同組合は中流階級の武器のやうに考へられて居りました。そして、中流階級は勞働階級に具體的な利益をもたらすのを拒ばまないにも拘らず社會主義者は彼等を下等な性質のものとしてその價値を認めなかつたのであります。ジユール・ゲスドは言つて居ります。社會主義者は粥すらも賣る用意ができないと。併し乍ら白耳義の社會主義者の行つた例は消費組合が彼等にもたらす利益を評價するやうに社會主義者に敎へたのであります。それ以來彼等は消費組合を默認しその擁護さへするやうになりました。併しそれには條件が附いて居ります。卽ち組合は單に社會主義團といふ機械に屬した

輪齒であつて、その主なる作用は社會主義團の新會員を勸誘して來るのと、平生はその團體に資本を提供し、そして、同盟罷業の場合には麵麭を供給するのであります。この政策を用ゐた結果、彼等は消費組合を社會主義團の乳牛としやうとしたと言ふ非難を受けたのであります。

各國に於ける消費組合の鼓吹者は組合運動が上述のやうな位置に低下せぬやうに極力を盡し、別な運動として別な方法を用ゐ、それ自身の目的を求めて成就し單に社會主義者又は產業革命主義者の道具とならないやうな獨立を維持する權利を要求したのであります。

之れに依て、私共は眞の組合熱望家も彼等自身社會主義者でないと考へて居るといふ意味に取つてはなりません。既に述べたやうな標識、即ち利益の排棄、消費者に依て管理される事、利益を生むといふよりは寧ろ要求を充たすといふ見地から產業を組織する事、產業の經營を資本家の手から消費者の手に移す事等は社會主義と名附ける外に方法はありませんそしてその反對者もその言葉を用ゆる事に異議はありません。併し組合派の社會主義は他のものとは異なつた銘を打つて居るのであつて、彼等はその銘を維持しやうとするのであります。佛蘭西に於ける組合の精神は一八四八年に存在して居つた佛蘭西の社會主義の舊派から來て居ります、そして今猶ほそれは理想主義的であり柔軟的であります。

何處の國に於いても組合運動はその獨立を出張する事に於て活氣ある爭論を惹き起したものでありますが、佛蘭西のそれのやうに烈しく起つた國は外にありません。一八九五年から一九一二年に至る十七ヶ年の間この爭ひに關する記事をもつて組合新聞は充たされて居り、そして凡ゆる會議に於いて問題の中心とされて居りました。勞働者の消費組合は中産階級の組合に反對であり、社會主義の組合は中立者の組合に反對であり、サン、クロード派はニーム派に、過激派は宗教派に反對でありました。そして之等がその論爭を奮激させたのであります、併し今日に於ては幸ひにもそれ等は皆歷史の物語りとなつて居る、のみならず消費組合の歷史に於いて常に敎訓的な章を成して殘るでありませう。

　結局組合運動の獨立を叫んだ黨派が勝を占めたのであります。この運動は英國に於て、スイッツルランドに於いて、又獨逸に於いてすらも非常な力强い擁護を得たのであります。併し獨逸に於いてはハンブルグの組合同盟と社會主義者（社會民主黨）との間の關係が甚だ接近したものでありました。この組合派の勝利は一九一〇年のコッペンハーゲンに於ける國際社會黨會議に於いて決議された時に正式に是認されたのであります。その決議文は勞働者が組合から受ける有形無形の有利なる點を稱揚した後に次のやうに結論して居ります――『勞働階級は資本

主義と戰ふ事に依て、勞働組合、消費組合及び社會黨が彼等個々の一致點を近かづけると同時に、『日々密接になる關係に依て一致團結すべきである事を知る事に依て最大なる利益を有する』と

ハンブルグに於いて後に開催された國際消費同盟會はこの宣言を批准し、そして既に述べてある通り、其後二ケ年の後、即ち一九一二年に行はれた佛蘭西に於ける一致協定の基礎となつて居ります。

ブルジョア運動と稱さるゝ物の中の最も進歩した精神及び社會主義者の運動に於ける最も中庸を得たものはロッチデールの先驅者に依て規定された模範的綱領に從ふに困難を感じません。その綱領の中には社會組織の發展に伴ふ必要上二三の

修正が加へられてあります。

併し乍らたとへ消費組合は中立の組合を吸收しやうとする要求を罷めたとは云ひながら、今尙組合界には　殊に佛蘭西に於いては、同盟が締結されて居るにも拘らず、その政策には著しい相違があります。それ等は色々の組合のタイプに依て例證されて居ります。

それは個人主義派と社會主義派と單純派の三種に分類されます。

（一）個人主義的タイプ

佛蘭西に於いてはこの組合のタイプを矢張りブルジョア組合と名付けて居ります。このブルジョアといふ言葉に依て意味されて居るもの丶定義を下せば、原則として社會主義者はこの言葉を次の理由

に依て或る組合に適用して居ります。つまり、その會員又は委員の中には中產階級、役人、小資本家及び書記などが居るとか、或ひは又彼等はその政策に於て保守黨に屬するとか、宗敎上の信仰を稱へるとか、或ひは同盟罷業の資金を提供しないからといふのであります、事實に於いて會員の一般の態度はこの訴へをもたらすやうな態度であります。

併し若し私共がこの限定に眞の科學的意義を與へやうとするならば、その組織が資本家的タイプであつて各會員の個人的利益の外に目的を有たない組合にのみこの言葉を適用せねばなりません。

かふいふ組合の中には次のやうなものがあります。

（ａ）組合の利益を資本に割當る組合、つまり利益を株の數に比例して會員に分配する組合。かふいふ性質の組合は倫敦の文官の組合の店であります。この組合は偶然的にもその會員の數と賣上高に於いて英國の組合の最高位となつて居りますが、その利益を單に株主である會員に分配するのであります。そして、その原則は品物を廉く賣るにあり、そして株所有者の數は甚だ僅かであるにも拘らず、その賣上高は莫大であるから組合は大きな配當をする事ができます、そしてその株は非常な高價をもつて賣買されます。

倫敦には之れと同じ基礎の上に組織された外の組合があつて、一つは高級役人の爲に、又、一つは武官其他の人の爲に

設けられてあります、併し乍ら彼等は所謂消費組合の中に數へられて居りませんそして組合同盟の會員ともなつて居りません。彼等は公に消費組合といつて居りませんが單に供給組合といつて居りますそれにも拘らず彼等は消費者の中の重要なる階級の必要品を供給し、他の方法を用ゐてするよりは餘程低廉に生活できるやうに彼等を助けて居ります。之れと同様な事が或る組合に就て言はれます。それは利益の全部ではなく一部を株主に配當するのであります。その一部といふものが如何に小額であつても、利益を配當する事は法律上から見ても道德上から見ても組合の協同的特性に反して居りますこの規定に許す事のできるたつた一つの例外は一定の率の利子を支拂ふ事であります。利子といふものは生産費として缺くべからざるものでありますから、利益の一部として算へる事はできません。

（b）買物に比例して利益を分配する組合。之れは二つの階級の會員を有つて居ります。卽ち全々組合を管理する一定の數の株主と組合の會議に列席しない會員とであります。この種の例は巴里の文官組合とセーヌのそれであります。

組合員が株主にならうとすれば舊株主が株を賣らうとする時にのみ可能であります。夫れ故に株は非常に要求されて居ります。そして丁度株式會社の株と同じ方法で額面以上の相場をよぶ事ができます。

思ふにその價格は英國に於ける、それと同様の組合の株のやうに騰貴はしないでせう。何故なら配當に關しては株主も會員と同じ立場にありますから。併し乍ら、何れにしろ、株は剩餘價値を有つて居ります。何故なら株主のみが豫備金に對して權利を有つて居り、その豫備金は絶えず增加しつゝあり、そして株の需要はその供給以上にありますから。

倫敦に於けるやうな大組合は他の組合とは離れて居て、法律上の手續に於いてすらも商業會社のやうに考へられて居ります。

(c)行政委員である會員に利益の一部を割當てる組合。高等法院はこの意味に於いて色々の必要に應じて決定したのであります。

この事柄に對して嚴格なそして確りとした規定を置く事は不可能ではありません。何故なら委員に支拂ふ事は或る場合に於て合理的に許されませう。そして密かに口錢を取るとか、又は、賄賂を取ると云ふやうな誘惑を弱めるやうな好結果さへ得る事ができませう。猶、この支拂は實際行つた仕事に對する俸給とも考へられます。そして私共が、かりに、それを利益配當と考へるとしても、それが行政委員の選擧に於いて不幸な競爭を惹起するやうな傾向にならない限り、使用人に自由に許されて居る配當に對するやうな非難を受けるとは思はれません。

(d)民主々義的に經營されて居らぬ組

合。——即ち、その組合の或る數の會員が多數の株を所有して居るとか、或ひは選擧に依らずして行政委員の職權を握つて居る組合であります。之れは雇主の保護の下にある消費組合を言ふのでありまして、原則としてそれ等は慈善會の發達したものであります。

前述の四種の階級の組合は何れも非立憲的であつて、名に於いては消費組合であつても、眞の消費組合ではありませんそして普通には組合同盟は彼等を會員の仲間に入れません。併し斯る組合は多數にはありません。其外に色々の組合がありまして、それ等は正教の原則に從つて制定されて居るにも拘らず、彼等はたゞ個人的利益を得るにのみ意を用ゐて居つて、個人主義的なブルジョア的な或ひは商業的性質をもつ傾向であります。

之等の組合の性質は國に依て異なつて居ります。佛蘭西に於いては彼等のその傾向は主に敎育、宣傳、或ひは事業の發展に對する補助金を與へない事、及び、組合同盟に加はる事を喜ばない事に依つて認められて居ります。彼等はそれ等の必要はないといふて居ります。そして外の組合がそれ等を必要とするならばそれはその組合の自由であるといふて居ります。そしてかりに彼等が同盟會を維持する爲に必要な寄附金を要求されて承諾しても、全くいやいやに承諾するのであります。

之れに反して英國に於いてはかゝる事

柄に關して義務を果たさない組合はありません。けれども彼等の個人主義的傾向は(配當退)として知られて居るものに依て現はされて居ります。

どの位の程度にその傾向があるかといふと、如何なる組合新聞もこの配當に關する記事及び報告を載せて居ないのはありません、それを或る人は黑死病と稱して居ります。

同じ方法に於いて人は、會員に節約の趣味を持たせるのが目的である組合のみを個人主義的組合と稱する事ができます既に述べて置きましたが、さうする事が即ち政治學に於ける自由派の經濟學者か一般消費組合に指定した役割であります之れを理想としてシユルッツ●デリックは信用組合及び消費組合を造つたのであります。そして彼が創立した中央同盟はその理想に忠實に從つて居つたのであります。斯くして分裂が起つたのであります。かやうな意見を佛蘭西の政治家なるレオンセーは矢張り述べて居りました。一八八六年十一月開催された政治經濟に對する會議に於て彼は、協同組合は、それが分配組合、建物組合、信用組合、或ひは其他の目的の組合を問はず、完全な貯蓄銀行であつて、その資金は預金者より得、そして預金者の利益の爲にその資金を用ゆるものであると定義して居ります。

一八八六年の十一月二十七日の講演に於て彼は再びこの定義に加ふるに『もし、

組合運動が倫理的結果を持つとすればそれは節儉の倫理的價値から來るのである そして、それが節儉となるとすれば自由を創造する節儉の力によつてゞある』と。『此見地は其の理想に於て缺點があると、組合運動にかゝはつて居る人の多くは考へるだらう。彼等にとつては組合運動の目的は節儉の習慣を造るのではなく勞働者の解放である』と云ふ事實を彼は無視しようとはしなかつた。

兎に角、私共が今列擧した特性、即ち階級精神、配當を渇望する事、個人貯蓄に心を集中する事等は組合の資格を無くすとか、又は消費組合の名を彼等に許されないといふに充分な理由とはなりません。さういふやうな組合は甚だ有効な仕事を爲し、そして彼等は運動の發展に於ける必要な局面であるとさへ考へる事が出來ます。彼等は協同組合の蛹であります。（つゞく）

――加藤ひさ譯――

（三五頁よりつゞく

要するに、この男の造つた世界が國際間の誤解を決着させる手段として戰爭を開始する時、婦人が其れに參加する事によつて、戰爭に贊成するならば、どうして婦人は其の選擧權によつてこの男の造つた世界を造りかへ得るか？ 婦人はこの國際間の誤解をば婦人の投票權をもつて平和に解決する事を宣言したではないか。英國婦人運動者中の硬派は戰爭に加はる事によつてます／＼自家矛盾に陷つて居る。で、この矛盾は彼等自身の爭闘的方法をとるに至つた誤つた前提から來て居るのである。

家庭の永久性

眞夏の强烈な太陽が日射病者を出したからと云つて太陽を惡いものだとし、其の存在を否定するものはないでせう。そして、其れは、我々の生存には太陽が無くてならないものであることが明らかであるからです。

我が國の所謂家族制度と云ふものは勿論婦人のために不利な點、及び、人間生活として不合理な點が少なくありませんでした。と云つて、家族生活、つまり家庭生活其のものを全然無視すると云ふことは、丁度、日射病者を出したと云ふ理由で太陽を無視しようとするのと同じではないでせうか。

勿論、私共の幸福を增進するもの、たとへば、醫術に於て、農業に於て、教育に於て、政治に於て、及び又、製造業に於て、よりよき手段が發見されるならば私共は其れを採用するに躊躇しません。けれども、今日の人知の力では次代養成と云ふ一事に對しても家庭よりもよりよき場所を見出し得ません。つまり、事實上、家庭の代りとなつて私共の生活に安定を與へ、次代の善を計り得る處はないのです。孤兒院・寄宿舍、下宿屋、及び旅館など、特別な場合には其れが家庭の代用となります。けれども、其れが如何に不便であり不滿足なものであるかは周知の事實です。殊に子供のために其れが好結果を持ち來たさないことは餘りに明白です。

母は子供に對して自然の保護者並びに教育者であるのです。一人の婦人として第三者の目にはどんな不完全な嫌やな女でも、其の女の幼兒にとつては彼女は此の世界中で最も美しい最も貴い女神であります。其の美しい貴い女神の手のうちにありさへすれば子供は幸

滿で安心してゐます。

ですから、次の國民の保護者として、又、教育者として、生みの母程の適任者は外にないのです。そして其の最適任者が安心して子供を育てゝ行ける場所は家庭であるのです。

故に、今日の凡ての文明國に於ける先覺者は、凡ての子供が母のふところに常に居られるよう、母が專心子供のために働き得るよう、そして、其れを實現し得るような經濟狀態を造り出すことに努力してゐます。

家庭を輕視する風潮が我が國にも盛んに這入つて來て、家庭は今日の文明には無用のものであるように、一般婦人は家庭を出て職業に從事しなければならないものゝように隨分高調されたのでありますが、其れは、唯、健康狀態にある者が其の健康の有難さを知らなかつたと同じように、家庭と云ふものが餘りに自分に近く、餘まりに馴れてしまつてゐた結果、其の意義が一時忘れられたまでゝあつて、病氣になつて始めて健康な時の幸福が分るように、多くの婦人が家庭を去つた結果、其の不便、苦痛、不幸に、今は氣付きつゝあると云ふ狀態になつてゐます。

私共が皆もよく知つてゐる人間の集團は家族です。私共は一家庭の中に一家族の一員として生れました。そして、多くの外の家庭とも密接な關係を持つてゐました。人は、皆、家庭を持つてゐます。もし、現在に於て、自分の家庭と云ふものを造つて居ない人も、將來に於ける自分の家庭と云ふものを考へて居ます。

私共は、又、善良な家庭が產出した偉人や聖人に付て多くを聞いてゐます。そして、さう云ふ人は先づ大體に、血統に於て、習慣に於て、知識に於て優秀な家庭に生れた人だと云ふことをお知りです。

所謂新しがりやの議論が何であらうとも、人は一夫一婦の強固な夫婦關係、睦じい家庭生活を喜び、性的關係のもつれや離婚を嫌ひ、自分等の子供が世間からの尊敬を受けることを希望してゐます。

社會制度としての家庭に付て、又、家庭を中心とした多くの問題に付て人は追々氣付いて來てゐます。家庭の生物學上及び社會學上の意義に附ても追々了解しつゝあります。進化論の言葉で云ふなら、一夫一婦の

家庭が赤子から青年になる迄、子供を育てる唯一の場所で、社會上の凡ての外の作用は皆此の家庭の作用に附隨すべきものであるのです。

婦人が家庭を離れて商業に從事することが婦人の進歩向上だと今迄は一般に云はれてゐました。

自分がいくらかの收入を絶へず持つて居なければ夫の侮蔑を買ひ、蹂躙され人としての自分の體面が保てないと言ふのは、今迄に幾度も〳〵繰へられて來たことでした。けれども、單に、直接の收入が有る無しによつて、やうやく保つ夫の尊敬心は眞に心細い極みです。それは自分の若々しい美しい容貌によつて夫の愛をつないで置くと同じで、容色が衰へると同時に捨てられる如く、何にかのはづみで、又は年齡の故に收入の道が絶へると同時に又夫に侮蔑され蹂躙されることになるでせう。

男、女、并びに子供の幸福其のものを顧みることなく、つまり、家庭を輕視して、幸福の手段となる物のために、つまり、產業のためにのみ婦人が沒頭すると言ふことは何と言ふ矛盾でせう。

太陽が日射病者を出したならば、太陽を呪ふことの代りに、日射病者を出さない工夫をして、太陽其のものゝ存在を無視しないことが必要、あると同じように今日の家庭なるものが婦人のために不利の點、不合理な點があれば其の點だけは何處迄も改造の必要こそあれ、家庭其のものを破壞するような態度に出ることは愚の極であります。

【お詫び】本誌八月號が全部發送濟みになつてから、同號内にとんだ間違ひのあることを發見して非常に驚きました。それは『近代歐州思想の歷史的研究』のうちの五八頁と六一頁の間の二頁にけ頁數が落ちてゐて、しかも其の一枚があべこべに刷られてゐました。ですから、六一頁の前の頁を五十九頁として五八頁の次の頁を六〇頁として讀んで頂かなければなりません。つまり、五十八頁から一頁とばして讀んで頂いて又前の頁に歸つて頂くことになるのです。

印刷所の手落ちでもありますが激忙のため私の注意も充分でなかつたため、とんだ失態を致しました本當にすみませんでした。訂正旁々深く御詫び申し上げます。

※復刻版においては正しくしてあります。



英國の讀者より

遙かに暑中御見舞申上げ御一家皆樣の御上に御健康を御祈り申して居ります。

五月號の雜誌も六月號のもたしかに頂だいして居ります、五月號の記事を拜見したとき御話し申上たいと思つて居る内に六月號が昨日屆きました、朝から夕方まで食事より以外に雨天の日でも屋内に居らぬ私は何もかもつかえて遲う／＼只今迄御無沙汰いたしました事を御許し下さいませ、小兒の相手はなか／＼疲れますが豫想以上の發育をして居ります事をよろこんで居ります。

御意見を頁々を繰返し讀みます毎に感激の涙が誘はれます、そうしてどれだけ多くの人が感化されつゝあるかわかりません、一層御自愛の程を祈つて居ります

神戸の凌辱事件の事新聞でも見て居りましたが私はあゝされても仕方がないとすぐ感じました。

それは日本の外人居留地を御存じか知りませんが横濱でも神戸でも婦人の貞操といふ事は度外視されて居ります、私は横濱の英人病院に三ヶ年修業して次に神戸に十ヶ月足らず外人間の產婆として働きましたが外人周圍に關係して働く人達の空氣が餘りに汚れて居る事に驚きました、大正四年と五年に亘つて神戸に居りましたが金のためには貞操といふ事は何とも思つて居りません、晝間は外人家庭に働いて夕食後からは立派にばけて金と交換しに行く事を幾度も見聞して居ります、全く服裝はどこの奧樣か御孃樣かに化けて行きます。物質慾のために大和撫子が外人に操を賣るのです。

多く廣島あたりのものがやつて居ります、相當の家庭の娘が希望して來て居ますから呆れて居ります、ですからあの事件の本人が眞夜中にあの居留地を女一人で歩いて居る事はあの外人には酒の上とは申せ、かれてそうゆう風習のところですからあの本人もやつぱりその仲間と思はれたかも知れません、事件の起つてから外人が金はいくらでも出すから秘密にして呉れと言ふた事は當然の事と思ひます、外人も惡いですけれども外人家庭にアノやうな事して夜間に横行するとかいふ女があるからです、私は横濱で病院に居りましたから外部の事は存じませんけれど神戸ではお產毎に異つた家庭に入りますから、あんまりあきれて永住の積りでいつた私も半年たゝぬ内に嫌やになりました、其當時京阪附近に親類のものもあり非常に好都合でしたがこういふ空氣を見る事のあまりに情けないやうな氣がしてとう〳〵折角の場所を退いた事は私の今でも一番記憶に殘つて居ります、それで一層あの記事を見た時に居留民地の警察權がこうしたアマ達の私娼を監視する事と思ひます。

神戸を退ひてから東京にかへり英國の使館から香港政廳病院に派遣せられて戰時中三ヶ年半近く彼地に滯在して居りました、私は日本人の居るところと全く距れたところでしたが彼地にも立派な天草出身もあれば廣島出身もあります、衆議院、貴族院とさへ別れた公娼がありますから、その公娼達よりも三井、郵船のやうな婦人達がこのおばけよりも甚だしい風姿をして横行して居るのでした。

今私は日本の人にはちつとも會ひませんが、そういふ風の人を見ないだけでも氣持よく暮して居ります。自己中心よりも次代とか周圍の人達にも少し考へて頂きたい事と思ひます、今の思想が洪水のやうに溢れてしみこみましたらどんなになるでせう、そういふ事を獨りでぢつと異郷の空で考へる時は私は獨りで泣けてなりません。男子も惡いけれども女にも少ししつかりしたところがあつて呉れゝばと思ひます。

三年前に私は伊豆の伊東にお產の合間に二週間ほど海水浴に行きましたが、今まであんまり社會の空氣を知らぬ私は驚きました、舟木令孃對島田事件の事でも

每年あゝいふ事は各避暑地である事と思ひます、都會の中流家庭が成金成功のために墮落したのではないでせうか、若い乙女達のためにどうか御主張などどしどし御發表下さい。

職業婦人が有閑階級とのゝしりながら衣裝慾に模倣せんと吸々としつゝある事は近來英國人には著しい惡化として認められて居るさうです、此國は家屋難に相對して使用人難に苦しんで居ります。若い女達は free time を希望して店員になり、家庭よりはホテルのやうな集合所に働く事を好んで居ります、前者はミス何々と呼ばれる事と、後者は主從の關係の如きものないとふために。一週間の働きを幾分かの貯蓄もせず全部食道樂に費すか衣裝費にするかして居るそうです、そうして若い相手を得る事に氣狂ひのやうになり居る事です、今はどんな田舍でもクラブのやうなものが出來てメードや若い男達が一週に二回位ダンス會をするそうですから、古い頭の持主の英國人はあきれて居ます、それで私がついて來た夫人は自國の乳母に最愛の兒を預けられぬと申すのであります。一日長く居れば居るほど私のやうな偏屈にはあんまりよい感じが致しません、けれども一方そういふ風にせなければ暮して行けぬ人程可哀想なものはないと思ひます、乳母達が子供の眠つて居る内に讀みものして居るものは十人の中に八人まで、私の見たのではつまらぬ小說のやうなものです、戰前迄はこの乳母達は眠つて居る内によく子供の編物とか縫物をして居たさうですが今はそういふ事する人は一人か二人しかありませんさうです。私は教養のあんまりないこの國の女達を評して男氣狂といつてやります。

日本もだん／＼變化してまゐりましよう私の歸る頃にはどんなに變つて居るでせう。

新聞に二三日前新しい病院が今度建設さるゝそうですがそれは中産階級でも下位に屬する人達のためにいくらかの入院料を拂ふ病院御存じの通り英國は病院と申せば大抵無料で入院さしてくれますが普通の人はナーシングホームに入院しますがとても高いそうです。それと申しても下位に屬する人達は高いナーシングにも行けずと云ふところで今度そういふ病院が出來ます

事を見て日本はどこでも病院と云ふところは入院すれば附屬看護婦をつけさせる事英國は大手術者昏睡狀態の人でなければ附屬と云ふものは全然ない事の比較と私の小さい意見ですけれども其内にあなた樣まで御話したいと思つて居ります。一つは看護婦の人格の向上にもならうと思ひます。

くだらぬ事を長たらしく認めました事を御許し下さい。

封入のものは御笑草に御送りしました御使用下さいましたら幸に存じます。

來月下旬にホテルを引上げて下記の處に引越しますから以後御發送下さいますせつはその所に御願みします。ボンマスから十哩許り距つた所です。

お買物でも御座いましたら御遠慮なく御申しつけ下さいませ、又その内にサヨナラ

眞島智蔵

山田わか子樣

御許に

東京の夏

東京の夏は實に暑い。たま〱大して暑くない夏に出逢ふと樂だと思ふ。と同時に農作物が氣になる。やつぱり夏は思ひ切つて暑い方が好いと思ふ。けれどもあんまり暑いと一そうの事八月中だけでも學校と同じやうに商賣も何もかも休業して何處か涼しい所へ行つたらと思ふ。併し、あの不快な煤煙を浴びての汽車旅行を思ふ時、そして汽車の左右のあの炎天の下にまつかになつて働いて居る農家の人達を考へる時、何んでそれが愉快だらう。東京にも氣持のいゝ春の風も吹く、引締つたすが〱しい秋の風も吹く。それ等の期節の快さをしんみりと味はうとするには思ひ切り暑い東京に、思ひ切り寒ひ東京に留まつてその氣候と戰ふべしだと私は思ふ。（ひさ）

夏日

原田琴子

つゆはれて庭の枇杷の實色づきぬ旅ゆきし人はいつかへるらん

さよ更けて遠くきこゆる汽車の笛旅なる背子を忍びつゝぬる

夜となれば旅なる父をしたふ子よすかすわが身もともにさびしき

朝夕の庭のわくらばさびしけれつゆはれてまだ日もたゝぬ夏

十めぐりの都の夏をむかふると鏡にむかひ髮をとく朝

そよぎ止まぬ庭の梢をみつめゐてわれにもあらずなき子を思ふ

ゆあみして衣更ふると立ちながら吾子はしにきゝまた思ふなり

三十路すぎいまだ思ひのさだまらぬ母ともしらず子はしたひよる

近代歐州思想の歷史的研究（三）

形而上學的に科學の問題を取り扱ふことに對する獨逸の反動

十九世紀の前半中、獨逸に於てはシェリング及びヘーゲルの學派が科學的の問題を形而上學的に誇張して取扱つてゐたが、其れに對する反動が這入つて來て、フランス及び英國の大學者の例に主もに從つてゐる實驗的の研究法が歡迎されるやうになつた。そして、研究所や及び氣象臺の設立、發見の航海、產業に科學を應用すること等によつて詳細の、そして、微細な智識の大なる量が蓄積された。

暫くの間は、正確な推理の範圍內に於てですらも、知識を要約し、統一する企ては

信じられてゐなかつた。その結果、殊に獨乙に於て、多くの科學知識は雜誌や、學會の記錄のうちに埋められてしまつてゐた。そして、敎科書は主もに二流の人が書いたり、フランス又は英國のものを反譯したり、其の上に、古くなつてしまつてゐるものを用ひてゐた。

敎科書の改革

十九世紀の中葉に於て、科學的研究を復活せしめた新しい精神は二三の學者に限られてゐた。これ等の學者は彼等の時代よりも進んでゐて、そして一般には殆んど知られてゐない人々であつた。併し、そう云ふ狀態は過去三十年間に全く變つてしまつた。前に引證した交際と交通の手段は、もはや、科學の孤立を不可能にしてしまつた。そして學校の敎科書の全部を現代式に造り直さねばならぬ必要が感ぜられた。科學に付ての先覺者の二三がそれ〴〵の問題に付て敎科書を書く程謙讓な態度を取るようになつた。それがために高等科學の敎科書に大改革が行はれた。

五十年の實驗的研究と材料蓄積の後、科學的推理の根據なる根本原則を改正する必要が起つた、つまり、形而上學とは云はぬが、より多く哲學的の精神が科學の範圍に現れて來たのである。

科學的の推理はより多く哲學的

抽象科學の、殊に數學に於ての、實際の進歩は、今は、主もに單純化する方法の發見、取り扱ひ方の簡明、巧妙、及び、原則を統一し、そして見解を總括することの發見による。

凡てそれ等は新しい生活が現れた單なる外部のしるしであり、進化及び變化の表示である。で、さうなつた內部の理由及び結果と、それから、外部の變化の基礎となり又は、外部の變化に伴つて變つて來た考へ方、それ等がこれから一層緻密に研究する問題である。そして、それが此の著作の實質となるのである。此の序論によつて、私が讀者の注意を引いて置かうとするものは、複雜な時計の機械を覆ふてゐる時間板の上の指針である。其の指針の運動と位置は誰にも明白である。

けれども、後に至つて私は讀者の目の前に其の時計の外側を取り外して、そして、その機械の細い動いて居る部分と原則と、第一動力、及び、其の動力を傳へて行く方法とを說明する。私は讀者にそれを理解することを試みて貰ひたい。思想の內部則ち隱くれて働いてゐる其の働きを跡つけて見たいと云ふ一般の好奇心は、現代の歷史に於て屢々、哲學的の議論に先を取つてゐた國民のうちに殊に現れてゐた。

獨逸は思想の生命を研究する上には先を取つた

現代の科學、及び思想の成長と發達を專門的に研究した獨逸の益々增加する歷史的の文獻が其の傾向を現してゐる。獨逸では其の當時に於ては歷史が哲學の代りになつたように見へてゐた。推理的の見地から歷史的の變化に迄の同じような變化は十八世紀の英國の文獻に於ても跡つけられる。其の變化の標本的なゝ代表者はヒユームである。彼はロックやバークレーの書いたものゝうちに含まれて居る形而上學の問題から始めて道德、政治、及び、經濟の問題の研究に進み歷史の研究に終つてゐる。ヒユームの晚年に當つて英國に於ては政治及び歷史

に關する文献が澤山あつたと同じように、ヒユームの經歷の始めに於ては形而上學及び哲學に關する文献が澤山あつた。

形而上學的研究法から歷史的研究法への變遷の原因

十九世紀の獨逸に於て、形而上學的にものを論ずることから歷史的に論ずるやうに變遷せしめた原因は十八世紀に於ける英國のそれと同じものであつた。けれども、全體の運動がより大なる規模であつた。そして、獨逸國民の精神生活と仕事により深く這入つて行つた。であるから、一人の代表的學者の書いたものを見ただけでは充分に研究は出來ない。

英國に於て哲學體系を造つた第一人者、ハバート・スペンサー

獨逸に於て、組織的な哲學が追ひ退けられ歷史的の研究が劈頭に置かれるようになつた時に、英國は英國の歷史に於ける最初の哲學の一體系を造つた。則ち、ハバート・スペンサーの其れである。哲學の目的は知識の統一にありと云ふ明白なる理由からさう云へるのである。

スペンサーの哲學體系に於ける統一原則は我々の細心の注意を引かねばならぬ著名

な事實である。それは進化と云ふ言葉で特に知られてゐる發達の一過程である。此の體系は獨逸哲學に於ける最後の大體系、ヘルマン・ロッツの其れに比較されるものである。進化の凡ての組織に於ては、ものの統一が歷史的であり、そして、ものゝ共通原因の中に統一を求められねばならないのに反して、ロッツは統一は生きた存在であらねばならぬと云ふ眞理を力說してゐる。則ち、その眞理と云ふのは、生きた存在とは個々別々のもののうちに存在してゐる一原則で、時間乃至は空間的に唯接近によつて結び付いてゐる一ッの鎖ではないと云ふのである。

ロッツの哲學體系の定義

如何にして人間の心はかような生きた統一を其れ自身に表現し與ふか？　如何なる思想に於て、此の統一が掴まれるか？　又、如何なる言葉によつて、其の統一が表現されるか？　と云ふ問題に答へるのがロッツの目的であつた。スペンサーの『組織』並びにロッツの『小宇宙』は思想の統一を設定し、ものは或る理解出來る關係に於て存在し、又、理解できる關係に於て出來事は起るものであ

ると云ふ確信、殊に、宇宙と生命の宗教觀と科學觀とは調和されべきものであると云ふ確信を保存するのが目的で書かれたものである。併しながら、スペンサーは不可思議なるものを基礎的統一と爲し、そして、しかる後に、出來事が續いて起り、ものが發達する過程を研究することを以て滿足して居るに反し、ロッツは、それだけでは眞の問題の解決の序論に過ぎないと考へたのである。彼にとつては發達の過程は單なる外部の形式であつて、實體は其の外部のうちに其れ自身を現すものであり、發達の過程はより高き價値あるものが造られる機械的な方法であると云ふのである。ロッツは、かような機械主義が至る處に働いて居るのを認める。けれども實體其のものを發見することの必要と、進化の過程と機械的手段によつて達せられる目的を明らかにする必要、及び、其の方法や手段に伴ふ利益と、其處に確め得られる結果を明らかにすることの必要を說いてゐる。

或る一ツの目的が爲しとげられる機械を知ることによつて我々は現象と出來事を計

算することが出來る。併しながら、それ等の現象と出來事を了解するには、其の上に爲しとげられる目的のねうちと、そして、計算によつて得られる結果の知識とを必要とする。

正確に時計を動かす機械の狀態を調べることが出來ると云ふ問題と、時計が鳴らす時間を聞き、そして、それが我々の仕事の分量を計つてゐると云ふことに注意するのとは別問題である。時計の内部の狀態をうかがふだけなら子供の好奇心で充分である。けれども、時計の針の進行によつて我々の仕事の分量を計ると云ふことは人生の目的と我々の義務の嚴肅であることを知る必要がある。

ヘルテルの「理想」とロッツの關係

ロッツは『小宇宙』を書かうと企てた時に、其の『小宇宙』と同じ傾向をもつた二大著書を引證した。其の二大著書は方法こそ異なつてゐるが散亂してゐる現象の大分野を包含的に見ること、則ち大きな事實の世界の全體の計畫を一瞥に納めようと企てたものである。其の二書のうちの一ッは十八世紀に屬

するもの、そして歴史に關するものである。則ち、凡ての人間の發達の統一的關係に關してゐるのである。ヘルデルは彼の著、「人間史の哲學に關する理想」に於て、人間と云ふ言葉に、人間の社會的及び歴史的の發達のうちに凡ての人間の利益を統一すると云ふ特別な意義を——發明したわけではないが——併し含ませてゐる。で、此の思想はライプニッツ以來獨逸の文獻を支配してゐた。

ハンボルトの「宇宙」とロッツとの關係

もう一ツの偉大な著作はアレキザンダー・ハンボルトの其れであつた。ハンボルトは彼の長い一生を通じて、大いに自然を研究すること、そして、現代の研究——其の現代の研究の彼は有名な代表者であつた——の詳細を評價する特種の機會を持つてゐて、至る處に貫通してゐる統一と云ふものを決して見失はなかつた。

ロッツの小宇宙

世界と云ふ此の大きな繪のうちに、宇宙と云ふ此の廣大な變化のうちに、生命と利益（インテレスト）とを持つた人間は何處に居るのか？ 大きな宇宙の中

に何處に小宇宙（人間）はあるのか？　と云ふ問題がロッツの心に自然と涌いて來た。『我々國民に與へられてあるモデルに從つて、再び我々が記述しようと希ふものは天地萬物の凡てを含むだ宇宙（コスモス）ではない。』と彼は云ふ。そして、『此の大きな世界と云ふ肖像畫の容貌が一般の意識により深く透徹して行くに從つて、それだけ、はつきりと、其の容貌は我々をして我々自身に歸らさしむる。同時に、全體としての大自然のうちに、其の永久につゞく特長と變り行く歷史をもつた人間と、其の人間の生活には如何なる意味があるのか』と云ふ問題を新らたに暗示してゐる。

【編輯の後】　八月八日に東京を立つて信州別所へ行きました。信州婦人社主催の女子夏期大學で四日間拙いお話をするためでした。長い前からの御約束であつたので唯其の義務を果すために行つたのですが思ひがけぬ涼しい風とキレーな温泉に浴して、生れて始めて私は避暑氣分を味ひました。

　どんなに涼しいと云つても働く人のためには矢張り暑いに相違ないのですが其の暑さも厭はずに有志達が大金を投じ大努力して若い婦人達を集め彼女達に精神上の糧を與へよう、彼女達の向上を計らうとして居られる姿は貴くも美しいと思ひました。舊約全書の中の羊飼ひの姿を私は思ひ起しました。

　婦人のために聊か氣焔を上げて歸京する汽車の中で、たつた一人の自分の生んだ赤子を持てあまして車中の凡ての人に非常な迷惑をかける一婦人を見て私は今上げて來た氣焔の手前少なからず恥しい思ひを至しました。『お前はあんな事を云つて居たがこんな女が多いのをどうする』と誰かゞ私をあざけつて居ました。全體としての女性のため特に本誌讀者諸姉の御自重の程をひたすら御願ひ申し上げます。

本誌定價表

一冊	六冊	十二冊
金二十五錢	前金 金壹圓四十錢	前金 金貳圓七十錢
送料五厘	（送料共）	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割増■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十二年八月廿三日印刷納本
大正十二年九月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人 山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人 大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所 婦人と新社會社
振替東京五三六八八

大正十二年九月一日發行　大正十二年八月二十三日納本　大正九年二月二十三日第三種郵便物認可



定價　二十五錢

であります。併し、今や、普通選擧が實施されて、國民的自治の理想が現實とならうとしてゐる曉に於ては、我が國民は政治的にのみならず、性的の自治自警と云ふことに付て考へなければならない。一般國民が其れを深く考へるように私共は婦人として要求しなければならない時に到達しました。

殊に、今年のジエネーヴに於ける國際聯盟總會は人身賣買に關する議題を處理するため委員會を組織しました。そして、今、尙、公娼制度を存置する國には注意を與へると云ふことを決議しました。

【男子の性的自治自警】

公娼の存在は、男子が性的の自治自警と云ふことを知らないために私娼に接近して病毒を蔓延するから、其の安全辨としてゞあると云ふことであつて、そして、事實其の通りであることを認めて居ましたので公娼廢止に贊成することを今日迄私は躊躇して居たのでありますが、併し、國民全般が政治的に自治しなければならないようになつた今は。性的にも自治することを私共婦人が男子に要求することは極めて至當です。

ツイ此の頃の某新聞紙上に二度程婦人の聲が現れてゐて其主意は二度とも、「遊廓は獨身男子の慰安所として必要であるが、藝者は實に恐るべき良家庭の破壞者であるから藝者朴滅の方法は無いものか。」と云ふのでしたが、併し、これは婦人の意見としては誠に見識を缺いたものです。藝者に戯れる有妻男子も不都合極まる者であり、又、藝を賣るよりも性を賣つて生活してゐる藝者共のものをも早晩何とかしなければならないものですが、併し、婦人の性を賣ることの公認が凡ての禍患の根源であることを知らねばなりません。

遊廓公認の事實が「女は金で買へるものだ」と云ふ觀念を男の頭に深く植へ付けてしまつて其のために全體としての女性の社會上の位置は無視され、人としての女性は侮辱され、數限りなき悲劇が現出されたのです。

其處で、今、一般男子が政治的に自治の權利を得るようになつたのを機會に、彼等が性的にも自治するように私共は聲を大にして彼等に要求しなければならないのです。性的關係の標準を高倘にして、「女は金で自由になるものでない」と云ふ原則を國民の頭に植へ付けるために、私共婦人は公娼廢止の斷行を當局に迫まらなければならないのです。

私共人類が進步したとか、高倘になつたとか云ふことゝは、要するに、私共が生れながらに持つて

ある本能を抑制し、思想感情を精選したに過ぎないもので、つまり、自然と戰つてそれを征服したものに過ぎない、猶云ひ直せばそれが文明であり進歩でありますが、併し、遊廓の公認はそも〳〵男の我がまゝ、つまり、男の性慾本能の跋扈を自由にしようとした、所謂男の頭から男本位に割り出された恥づべき制度であるのです。

【遊廓と市の財政】

遊廓からは税金のかたちとなつて市の收入が莫大であることも公娼廢止に對する一ツの理由であるように聞きましたが、併し、其れは餘まりに皮相な論據であることを此處に附け加へて置きます遊廓は決して富を生むものでないことを先づ頭に置いて下さい。一遊廓にあつまる一ケ月の金額が何十萬あつて、其の何割かゞ市の收入となるとしても要するに其れは市民のふところから出る金です。もし、其の何十萬かの金が遊廓に行かないとしても其れが消へて無くなる筈のものではなく、銀行の預金となるか、知力の糧となる出版業者の手に渡つて行くか、或ひは家族の生活を豊かにする日用品と交換されるかするのであつて、人身賣買と云ふ不正な營業を盛んならしむる代りに、個人的にも國民的にも健康と幸福を增進する方面に使用されるのです。

公認遊廓が存在して居り、其處へ多くの男子が浮れ込むことによつて自然に莫大な金が其處に沸出しで市の財政を助けると假りに假定しても、男子の其の行動によつて多くの女性が奴隷の狀態に幽閉され、又、他の一方には泣かされ生活を暗くされる多くの母、妻、及び、子女が其の精神を萎靡させられ、精力を消耗させられてゐます。ですから、都市全體としては財政を助けられても何にもならない程の損失であります。けれども、遊廓で金が沸くのではないこと前にも云つて置きました。

ですから、今後も猶市の財政のために遊廓の公認を云々する者があるならば、其の餘りに皮相な見解を私共婦人は笑殺し盡してやらなければなりません。

或る論者は、又、生活のために必要上、或ひは本人の好みによつて賣婦になつて居るならば、其れを干涉するのは餘計なお世話ではないかと云はれましたが、併し、生活のためと云ふならば賣るべからざるものを賣らずとも生活が立つように方法を見出してやるのが識者の又は官憲の任務であり本人の好みと云ふならば、そんなことを好まないように敎へ導ひてやらねばならないと思ひます

【公認遊廓と次代敎育】

公認遊廓の存在は次代を教育する上に多大の障碍となつて居ました。「立派な人間が立ち入る場所でない。」と子供に云つて聞かせても「立派な人間が這入つてならないようなものを何故政府は認め許して居るのか？」と云ふ質問には多くの母が答へに惱む處です。

公認の遊廓でないならば「あれ等は國民的水平線以下の人間であるから」と云つても濟まされます。かくして子供の前に政府の威嚴を保つことが出來ると思ひます。政府に對して侮蔑の言葉を投げつけようとする惡風潮に子供が染まないように多くの眞面目な母は心を痛めてゐます。そして、此の公認遊廓問題は厄介なものゝ一つなのです。

國民的水平線以下に墮いてゐる賣婦に戯れ、病毒に感染したと云ふような人間は一日本國民としての資格なき者として指彈されると云ふ氣分を此の際確立したいと思ひます。

我が國の首都東京市が其の範を示すならば地方都市は機會のある度毎に其れに倣ふでせう、そして、全國の風敎の上に好結果があることを私は疑ひません。

從來の通りの大遊廓が再び建設されてしまうならば、此の次に其れを除去することは容易でありません。一切が灰になつた此の機を外さずに當局が賢明な處置を取られることを東京市民引ひては全國民の幸福のためにひたすらに私は希望します。

おことわり

呪はれたる九月一日。あの大事變の災害に直接遭遇なさつた方達は勿論のこと、罹災地以外に御住居の方達も新聞及び雜誌によつて大よそのことは御存じで御座いませうから今更私がくだ〳〵しく申上げる必要はないと思ひますが、唯、私自身に直接關係ある者に付て申上げますならば主人の弟が須田町に於て丸燒け、私の妹の主人が會社に於て壓死、それから本誌初號以來、本誌のために御執筆下さつた原田琴子さんの長男(五歳)が矢張りあの地震が間接の原因で御逝去なさいました。

私の一家は幸いことなきを得ましたが、併し、あの大事變が大打撃であつたことは爭はれません。そして其れが本誌に迄も影響することになりました。

實は、本誌を創刊してから滿三ヶ年と九ヶ月の間本誌を維持して行くために經濟上少なからず苦心致しました。其の缺損を補充するために絶へず雜誌を造ること以外の仕事をしなければなりませんでした。時間を他に奪はれるために雜誌の内容には遺憾の點も少なくなかつたのですがとにかく働きさへすれば雜誌の發行には差し支へませんでした。處が、今回の大事變は私共の收入を激減してしまいました。本誌四十一號に於て發表致しました大きな反譯の出版を引き受けてゐた出版業者も矢張りあの大事變のために事業の一頓挫を來し、其のために私共の反譯も中止の止むを得ざる狀態に陷りました。そんなわけで、從來のかたちのまゝでは到底負擔に耐へられませんので止むなくこんな小さなものとして出さなければならなくなりました。

其のうちに私共の經濟狀態が回復した時に又以前のかたちにするつもりで居りますが其の間のつなぎとして暫くの間讀者諸氏の御寛容をお願ひしたいと思ひます。

それから誌代に付て申上げて置かなければなりませんが、經濟狀態が回復した時と申しましても其れはいつと云ふことが確定してゐるわけではありませんから先づ當分此のかたちを續けるとして一部十錢一ヶ年一圓

と云ふことにして、既でに前金お拂ひこみ下さいました分は其の割りで數へて向ふへ延し、前金切れの分はどうぞ九月號迄の不足分と今後の一ヶ年分一圓とを添へて至急御拂ひ込み下さいますことを此の際特に御願ひ申上げます。

非常に貧弱なかたちの雜誌になりましたが、併し考へて見れば天を摩すような高層で店を張つてゐた大商店も一間或ひは二間の間口のホツタテ小屋になつてゐる今日ですから此の雜誌の體裁の變化は大したことではないかも知れません。

私共は大震大火の經驗はこれで二度目です。今から十八年以前桑港に於て其れに遭遇し、丸燒けになつたのを機會として無一物で歸國したのでした。其の時の經驗と今度の經驗――それは何處迄が天災で、何處迄が人災であるかゞはつきりしてゐる、人災と云ふ意味は我が國は地震國でありながら、都會は火事の多い處でありながら一個人としては恐しい其の災害の經驗はなくとも一國家として又は一都市としては十二分の苦い經驗を持つて居ながら社會的の健忘症が其等の災厄に備へることを怠つてゐて、そして、死なせずともの無數の生命を無駄にした――又は災害後の帝都復興に關し、或ひは又今後の私共の心の置き處等に關して書きたいことは胸に溢れて居ながらも目下の假小屋の悲しさに其れを充分に披瀝して皆樣に讀んで頂くことが出來ません。

將來に大いに希望を置いてこれで筆を擱くことに致します。どうぞ相變らずの御同情と御後援の程を御願ひ致します。

十月號がぬきになつて九月號の次が本號であることを、お詫びかた〴〵おことわり申上げて置きます。

本誌臨時定價表

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割增■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十二年十月三十日印刷納本
大正十二年十一月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一八九
印刷人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

英語 獨、佛、西 羅甸初歩 自由教授

○予が教授の趣意○

○予が英語敎授の目的は、一般士人たるに必要な根本の智識を、主として英書に依つて獲得せんとする篤志者に對し、之を補助し之を奬勵するにある

○予が多年の經驗に依れば、撰擇宜しきを得た若干の書籍を、適當な順序で正確に讀破することは、專門家たるを要せぬ一般讀書子に取りて、眞に多大の効果がある。『今日の眞の大學は印刷した書籍の倉庫である』とカーライルは云つた、讀書子は大學に入らずに、能く學者たるの識見を養ひ得ることは、今や何人も之を認むる所である。現代の多くの男女にとりて、大學や高等の諸學校に入ることは、容易のことではない。故に學校以外にある篤學の士は、最も善き種類と最も適當なる課程の讀書に、其餘暇を利用し、獨り靜かに智識を貯ふべきである。

○故に予は、書籍の撰擇と讀書の順序とに、特別の注意を拂ひ、以て篤志な獨學者の友となり、他日その人をして、如何なる社會に立つとも、決して恥かしくないだけの學識を修得させたい考である。

○特に予は、篤學な婦人の爲に、婦人問題の研究を勸めたい。苟くも現代、進歩主義の男女にして、予が如上の志を諒とする諸君は、予が私塾に於て、有ゆる便宜と厚遇とを享くるの特權を有する。

◇略則

△敎授科目□日用英語□英文學□政治、經濟、法律、哲學宗敎社會學等に關する英文名著の讀及び講義□獨、佛、西、及び甸語初歩

△時間（午前八時より午後八時まで）

△休日（土曜、日曜及び祭日）

△月謝□二十分間五圓□四十分間十圓

○入學の日より其翌月の同日までを一ヶ月とし總て前納の事

△束修 金貳圓

□尚ほ英文和譯、和文英譯の需めに應ず

東京市四谷區
南伊賀町四一
山田嘉吉